

細胞老化とがん抑制

(Cellular senescence in tumour suppression)

演者：成田匡志 博士

Group Leader, Cancer Research UK, Cambridge Research Institute

日時：2008年11月13日（木）16:30～18:00

会場：総合研究棟D 115室

講演要旨


細胞は様々なストレスに反応してその表現型を変化させる。そうした変化の一つである細胞老化は、細胞が特徴的な細胞形態を伴い、安定に細胞周期を停止した状態と定義される。細胞老化とは、決して細胞が死に行く過程ではなく、細胞はむしろ活発な代謝能を有している。また、それに伴う細胞周期停止が非可逆的と形容されるほど安定なことから、細胞老化は腫瘍抑制に関与しているものと考えられている。また、細胞老化にはDNA損傷応答、クロマチン変化、分泌プログラムなど、様々なエフェクターメカニズムが関与している。本セミナーでは、中でも細胞老化における遺伝子発現を調節するエフェクターメカニズムについて考察したい。

参考文献

Narita et al, (2006) Cell. 126(3):503-514.

Narita et al, (2004) Cell. 113(6):703-716.

細胞工学 2008年9月号 監修

 多数の皆様のご来場をお待ちしております。